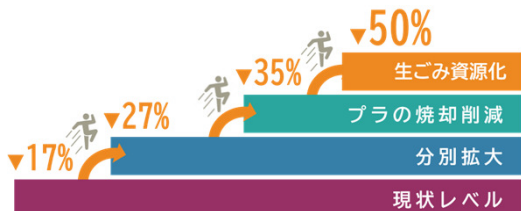


2033年 ゼロエミッション計画の次の目標



POINT!!

段階的に資源化率を上げていきます。



計画の基本理念と基本方針

基本理念

それって本当にごみ？ 人と資源が環る持続可能なまちづくり
～みんなで力を合わせて次の世代につなぐ“ふるさとかめおか”～

<p>基本方針.1</p> <p>「美しいふるさとかめおか」を次代につなぐ活動を支援します。</p> <p>地域団体支援・環境教育・環境パートナーシップ エコウォーカーキッズチャレンジプログラムなど</p>	<p>基本方針.2</p> <p>2R（リデュース/減量・リユース/再使用）を強化します。</p> <p>家庭ごみ対策・エシカル消費推進 事業系ごみ対策 食品ロス対策・イベントごみ対策など</p>
<p>基本方針.3</p> <p>多様な資源化システムを構築します。</p> <p>回収方法・分別拡大 資源化方法検討 施設整備方法の検討など</p>	<p>基本方針.4</p> <p>ごみの適正処理に向けた体制・仕組みを整備します。</p> <p>収集運搬体制 処理体制 計画の進行管理など</p>
<p>基本方針.5</p> <p>不法投棄対策及び災害廃棄物対策を強化します。</p> <p>不法投棄対策 エコウォーカーの推進 災害廃棄物対策など</p>	

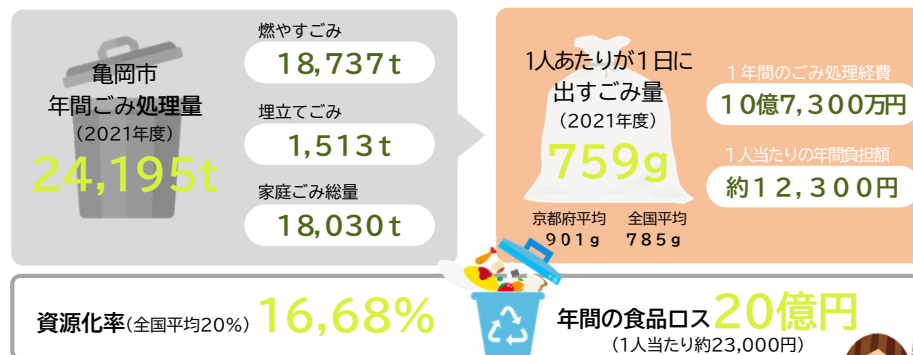
それって本当にごみ？ 人と資源が環る持続可能なまちづくり

亀岡市ゼロエミッション計画を改訂しました。

ゼロエミッション計画は、廃棄物処理法の規定に基づき、市が5年ごとに策定するごみの減量化、資源化、処理処分について重要な事柄を定める計画です。今回は、前回策定(2018年3月)から5年を経過することから、最新の社会動向や実績に基づいて見直し、次の10年間(目標年度は2033年度)の計画を定めるものです。



1年間の亀岡市のごみの現状について知ろう！



このままでいいのかな？ 次世代の負担にならないの？

ごみ処理施設の現状とビジョン

将来世代に負担を残さない!!

施設の寿命ってどれくらい？
老朽化した焼却施設

1997年から使い続けている桜塚クリーンセンターは老朽化がすすみ、そろそろ更新時期が近づいています。

修理費、建て替え費用は???



埋立てる土地にも限界が!?
最終処分場のひっ迫



ここまで埋まっています。本当に「埋立てるしかないごみ」ばかりでしょうか？

ゼロエミッション計画は新たな次のステップへ



新しいごみ処理システムへ

地球にやさしいクリーンな処理を実現
エネルギーに変え資源を回収する



新たな埋立処分場は作らなくてすむ

減量と資源化により埋立て量は大幅に少なくなる

概要版

亀岡市ゼロエミッション計画 2023(令和5)年3月

亀岡市 環境先進都市推進部 資源循環推進課 〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地
電話 0771-22-3131(大代表) ホームページ <https://www.city.kameoka.kyoto.jp>

亀岡市はSDGsに取り組んでいます。 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ゼロエミッション計画のタイムライン ~未来へ~

ごみの見方を変え、市民・事業者・行政みんなで力を合わせて環境から始まる誰もが幸せになれる未来へ！

■ 2018年3月
「新たな最終処分場は作らない」と宣言した「亀岡市ゼロエミッション計画」

■ 2022年度
見直し策定され次のステップでは
「それって本当にごみ？」を合言葉に
”燃やすだけに頼りすぎない”
”新たな埋立処分場はつぐらない”
将来世代に負担を残さないまちづくりをすることが今を生きる私たちの責任です。

2021年度実績

- ・資源化率は目標17.89%に対して **1.668%**
- ・焼却処理量 **19,995 t/年**
- ・まだ分け切れていない資源物
- ・食品ロス・プラスチック類対策は急務
- ・最終処分量 **3,994 t/年**

このままだと残余容量は...

約10年

2018年3月

亀岡市
ゼロエミッション計画
を策定

「新たな最終処分場は作らない！」と宣言

2022年度 計画の見直し策定

- ・脱炭素、循環経済の必要性
- ・食品ロス対策の推進の必要性
- ・分別拡大による資源化の促進

2023年度より分別拡大スタート
紙類、剪定枝 落葉 小型金属、プラスチック

資源化率目標

50%超え

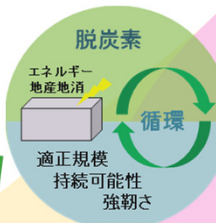
2033年度に設定
(ごみの半分以上は資源)



亀岡市の食品ロス



実際の埋立てごみ



2023年度より 新しい計画の実行

- ・焼却処理に頼らない処理方法の推進
- ・二酸化炭素量は2030年に **50%削減**
(2013年度基準 市環境基本計画)
- ・エネルギーの地産地消
- ・最終処分量を削減し埋め立てに頼らない処分
現状 **3,994 t/年** ⇒ **1,457 t/年**
(2021年) (2033年)
- ・財政・収支構造の改善、施設規模と適正運営
- ・子育て支援・福祉・教育等への多様な施策展開
- ・災害時に強靭な施設の実現



分別

減量化

「減量化」と「分別」
参加と協力で将来への負担を
なくしましょう。